



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより



学ぶ喜びのある学校

令和6年度7月号
令和6年7月1日

「当たり前」のことが「当たり前」にできる

校長 池田 泰章

日頃より、地域の皆様、保護者の皆様には、本校の教育活動に対して、温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。日本でもっとも有名なテーマパークの中にあるフードサービスでのお話です。若い夫婦が2人でフードサービスに入りました。キャストは夫婦を2人がけのテーブルに案内し、メニューを渡しました。すると夫婦はメニューを見ることなく「お子様セットを2つください」とオーダーしました。キャストは驚きました。なぜなら、規則で、お子様セットを提供できるのは8歳未満と決まっているからです。

キャストは「お客様、誠に申し訳ありませんが、お子様セットは8歳未満のお子様までと決まっておりますので、ご注文いただけないのですが…」と丁寧に断りました。すると、夫婦がとてもしょげな顔をしたので、キャストは事情を聞いてみました。「実は…」と奥さんが話し始めました。「今日は、亡くなった私の娘の誕生日なんです。私の体が弱かったせいで、娘は最初の誕生日を迎えることもできませんでした。子供がお腹の中にいる時に“3人でこのフードサービスでお子様セットを食べようね”って主人と言っていたんですが、それも果たせませんでした。子供を亡くしてから、しばらくは何もする気力もなく、最近やっと落ち着いて、亡き娘と一緒にこのテーマパークに来て、3人で食事をしようと思ったのですから…」キャストは話を聞き終えた後、「かしこまりました。」と答えました。そして、夫婦を2人掛けのテーブルから、4人掛けの広いテーブルに案内しました。さらに「お子様はこちらに」と、夫婦の間に子供用のイスを用意しました。やがてそのテーブルには、お子様セットが3つ運ばれてきました。キャストは笑顔でこう言いました。「ご家族で、ごゆっくりお過ごしください。」この夫婦から後日届いた礼状には、こう書かれていました。「お子様セットを食べながら、涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているように家族の団らんを味わいました。こんな体験をさせて頂くとは、夢にも思っていませんでした。もう、涙を拭いて生きていきます。また、来年も再来年も娘を連れて行きます。そしてきっと、この子の妹か弟を連れて行きます。」さて、このキャストの行動は明らかにルール違反です。しかし、上司から叱られることはありませんでした。なぜなら、このキャストはこのテーマパークが大切にしている『「当たり前」のことが「当たり前」にできる』に従って行動したからです。

今月21日は、夏休みです。ご家庭でも、そろそろ夏休みのことが話題になる頃だと思います。学校では、子供たちが主体的に夏休みを過ごすための指導をしています。しかし、夏休み中の子供たちの生活の基盤は、家庭が主体となります。「早寝、早起、朝ごはん」「安心、安全」など『「当たり前」のことが「当たり前」にできる』ように留意していただけないが、普段でいきないうることにじっくり取り組んだり、いろいろな人との触れ合いを通して、社会性を伸ばしたりする機会にいただければと願っています。子供たちの心身の健やかな成長のために、保護者の皆様、地域の皆様のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。